

令和元年度 外国籍児童生徒数学校別

2020/1/31現在

	小1年	小2年	小3年	小4年	小5年	小6年	合計
名張小学校				1(ブラジル)	1(ブラジル)		2
蔵持小学校	1(フィリピン)		1(ブラジル)		1(フィリピン)		3
美旗小学校	1(中国)	1(ブラジル) 8/29~	1(インドネシア)			1(ブラジル) 8/29~	4
すずらん台小学校		1(ブラジル) 1(中国)					2
箕曲小学校				1(中国) 4/8~			1
桔梗が丘南小学校		1(中国)					1
桔梗が丘東小学校	1(韓国)			1(フィリピン) 11/25~	1(ブラジル)	1(中国)	4
つつじが丘小学校			1(ブラジル) 1(ブラジル)		1(中国) 1(フィリピン) 9/8	1(ブラジル) 1(ブラジル)	6
梅が丘小学校	1(中国)		1(モンゴル)				2
百合が丘小学校		1(タイ)	1(ブラジル)				2
管理外(外国の学校へ)	(1(中国))						1
	4	5	6	3	5	4	27
	中1年	中2年	中3年				
名張中学校		1(フィリピン)					1
赤目中学校	1(韓国)	1(タイ) 1(ブラジル)	1(韓国)				4
北中学校	1(インドネシア) 1(ブラジル)	1(フィリピン) 8/28~	1(ブラジル)				4
南中学校		1(ブラジル)	1(フィリピン)				2
(伊賀つばさ学園)			1(中国)				
	3	5	3				11

太字・本年度転入・編入

小学校(10校 27人) 中学校(4校 11人)

加配教員、日本語指導員、支援員対応

学齢より下の学年で受入(赤字)

国別	小学校(人)	中学校(人)
ブラジル	12	4
フィリピン	4	3
中国	7	0
韓国	1	2
インドネシア	1	1
タイ	1	1
モンゴル	1	0
	27	11

年別	小学校(人)	中学校(人)
H31(R1)	27	11
H30	22	9
H29	19	6

日本語指導が必要な児童生徒数

小学校	6校	14人
中学校	3校	4人
合計	9校	18人

令和元年度 日本語指導が必要な児童生徒への対応一覧

	学年	児童国籍	名張市 日本語指導員	日本語支援員(ボランティア)	その他
蔵持小学校	1	フィリピン	指導員B	●●● (28回※)	県巡回相談員
	3	ブラジル		●●● (17回) (3回)	県巡回相談員
	5	フィリピン		●●● (※)	県巡回相談員
美旗小学校	2	ブラジル	指導員B	●●● (41回)	県巡回相談員
	6	ブラジル			県巡回相談員
箕曲小学校	4	中国	指導員D	●●● (67回)	
桔梗が丘東小学校	4	フィリピン	指導員B		県巡回相談員
つつじが丘小学校 (加配教員あり)	3	ブラジル			県巡回相談員
	3	ブラジル			県巡回相談員
	5	中国			県巡回相談員
	5	フィリピン			県巡回相談員
	6	ブラジル			県巡回相談員
	6	ブラジル			県巡回相談員
百合が丘小学校	3	ブラジル		●●● (22回)	県巡回相談員
名張中学校	2	フィリピン	指導員A	●●● (38回)	県巡回相談員
北中学校	2	フィリピン	指導員C	●●● (7回) ●●● (16回)	県巡回相談員
南中学校 (加配教員あり)	2	ブラジル			県巡回相談員
	3	フィリピン			県巡回相談員

外国人児童生徒サポート事業について

令和2年2月28日

令和元年度外国人児童生徒日本語指導員

- 指導員 A (小1、中1 (技))
- 指導員 B (小1)
- 指導員 C (中1 (社))
- 指導員 D (小2)

職務内容

- 外国人児童生徒の日本語指導 (取り出し授業可)
- その他外国人児童生徒の学校生活に関わる必要な支援

日本語指導の必要な児童生徒

- フィリピン (タガログ語) 5名
- ブラジル (ポルトガル語) 3名
- 中国 (中国語) 1名
- 合計 9名

巡回先、日時

2月28日現在

指導員 A 週2時間 1校				
名張中		2年	フィリピン	火：5, 6限 木：6限 金：1～3限

指導員 B 週17時間 3校				
美旗小		2年	ブラジル	火：3, 4限 木：1, 2, 3限
		6年	ブラジル	
蔵持小		5年	フィリピン	月：1, 2, 3限 火：5, 6限 金：1, 2限
		3年	ブラジル	
		1年	フィリピン	
桔梗東小		4年	フィリピン	月：5, 6限 火：1限 木：5, 6限

指導員 C 週5時間 1校				
北中		2年	フィリピン	月1, 2限、水1限、金2, 4限

指導員 D 週3時間 1校				
箕曲小		4年	中国	月2限、水2限 木3限

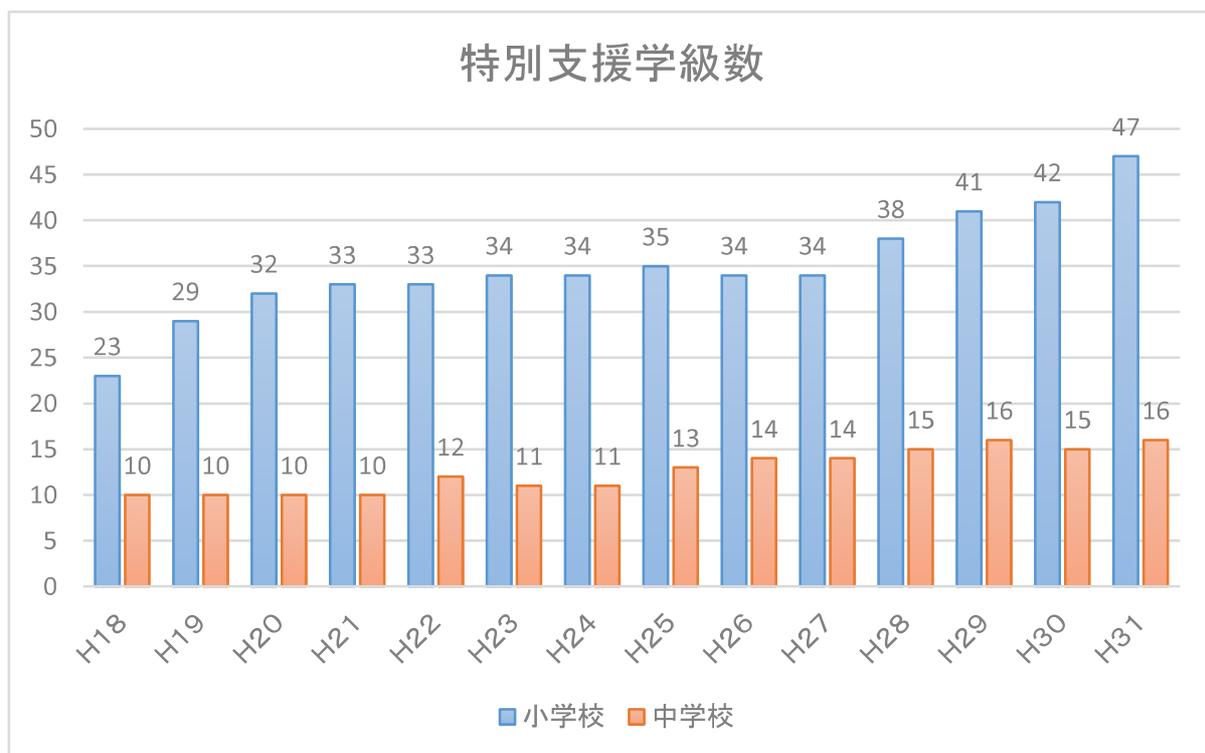
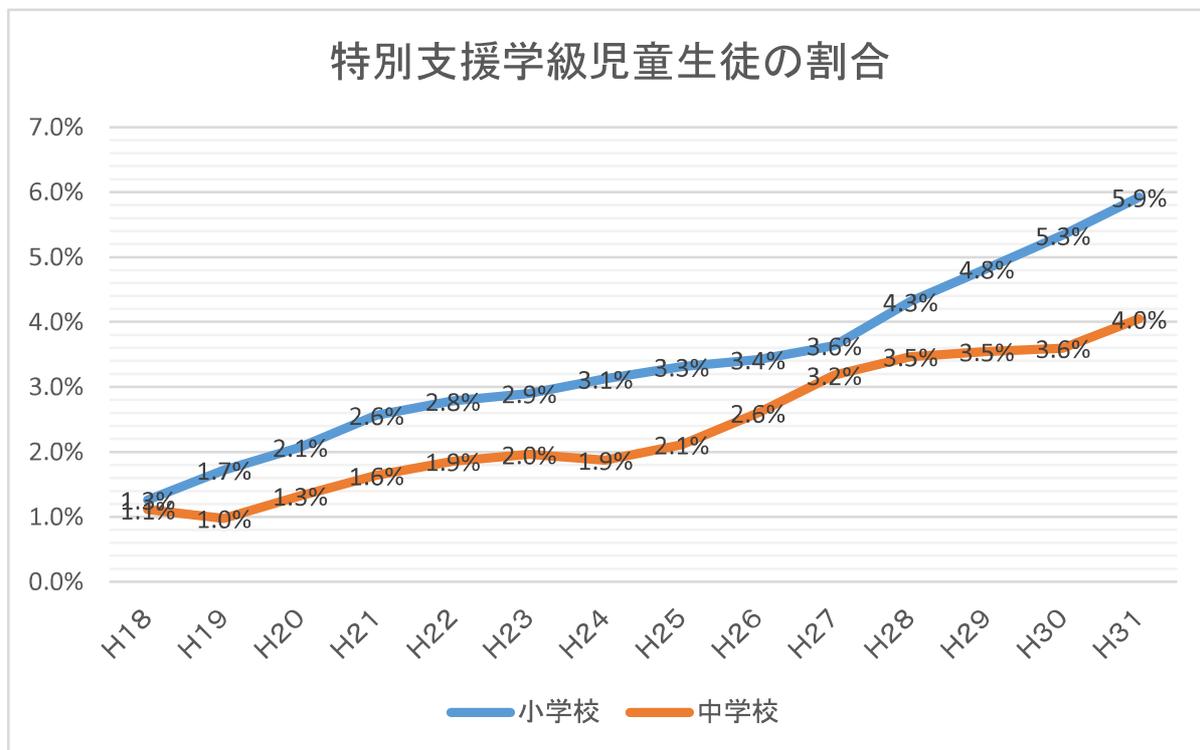
通常の学級における特別な支援を必要とする児童・生徒数 (年度別)

	22年度			23年度			24年度			25年度			26年度		
	児童・生徒数	対象者数	割合												
小学校	4345	242	5.6	4205	258	6.1	4179	326	7.8	4118	290	7.0	4035	299	7.4
中学校	2182	141	6.5	2101	139	6.6	2043	171	8.4	2032	155	7.6	1979	141	7.1
合計	6527	383	5.9	6306	397	6.3	6222	497	8.0	6150	445	7.2	6014	440	7.3

	27年度			28年度			29年度			30年度			R1年度		
	児童・生徒数	対象者数	割合	児童・生徒数	対象者数	割合	児童・生徒数	対象者数	割合	児童・生徒数	対象者数	割合	児童・生徒数	対象者数	割合
小学校	3947	335	8.4	3906	385	9.8	3874	465	12.0	3847	341	8.9	3804	339	8.9
中学校	2040	153	7.5	2004	171	8.5	1960	197	10.1	1907	154	8.1	1869	153	8.2
合計	5987	488	8.1	5910	556	9.4	5834	556	9.5	5754	495	8.6	5673	492	8.6

(H22～R1年度9月1日現在)

特別支援学級の児童生徒数及び特別支援学級数の推移

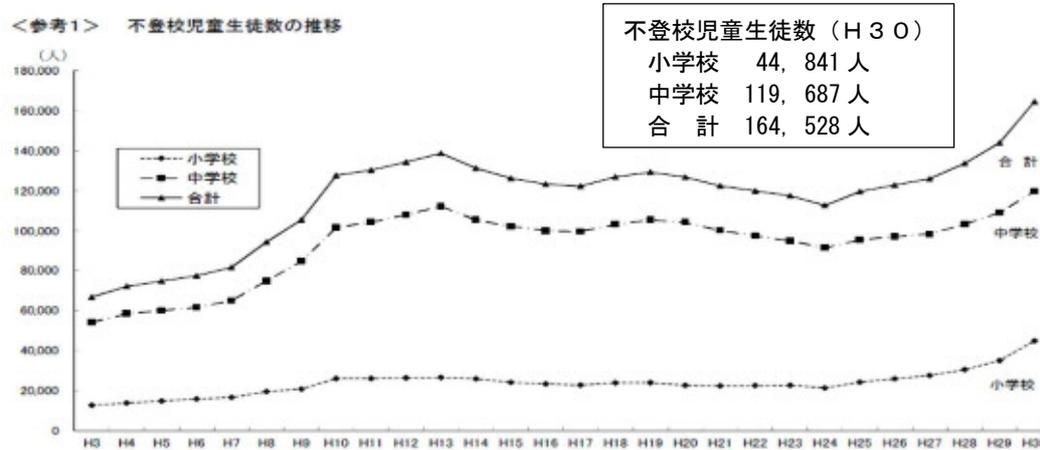


名張市内小・中学校における長期欠席者の現状と新年度に向けて

名張市適応指導教室（さくら教室）

1. 全国の不登校児童生徒の状況

(1) 不登校児童生徒数の推移（平成3年度～平成30年度）

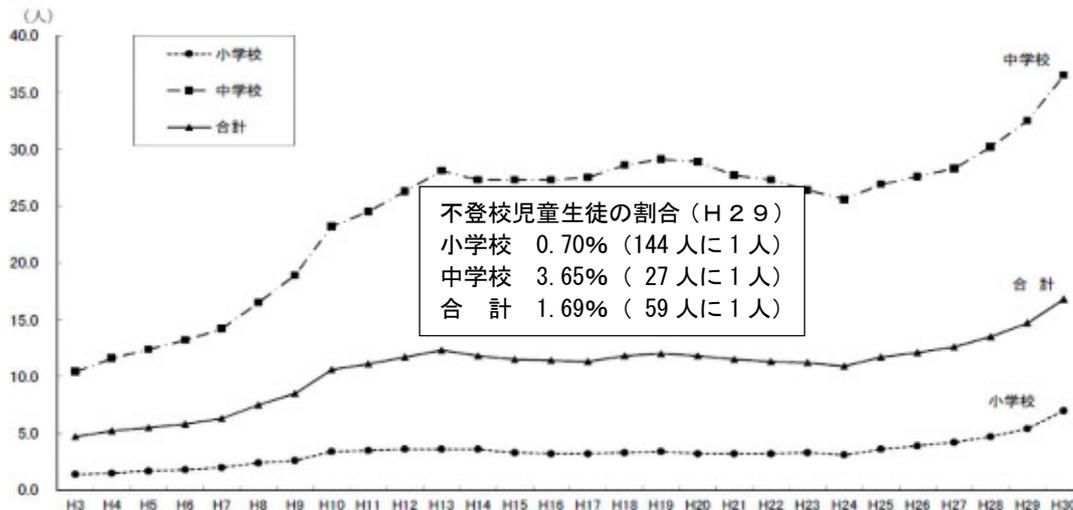


※ 平成30年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果より抜粋編集

○平成25年度より、小・中学校とも不登校児童生徒は大幅な増加傾向にあり、特に小学校の不登校児童数は、過去最高の人数を更新し続けている。

(2) 不登校児童生徒数の割合の推移（1,000人当たりの不登校児童生徒数）

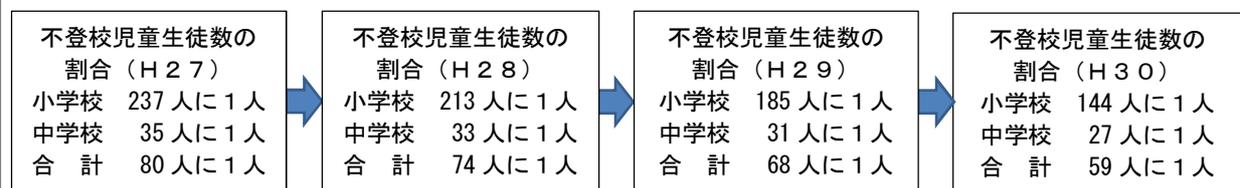
<参考2> 不登校児童生徒の割合の推移(1,000人当たりの不登校児童生徒数)



(注) 調査対象：国公立小・中学校（小学校には義務教育学校前期課程、中学校には義務教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程、高等学校には中等教育学校後期課程を含む。）

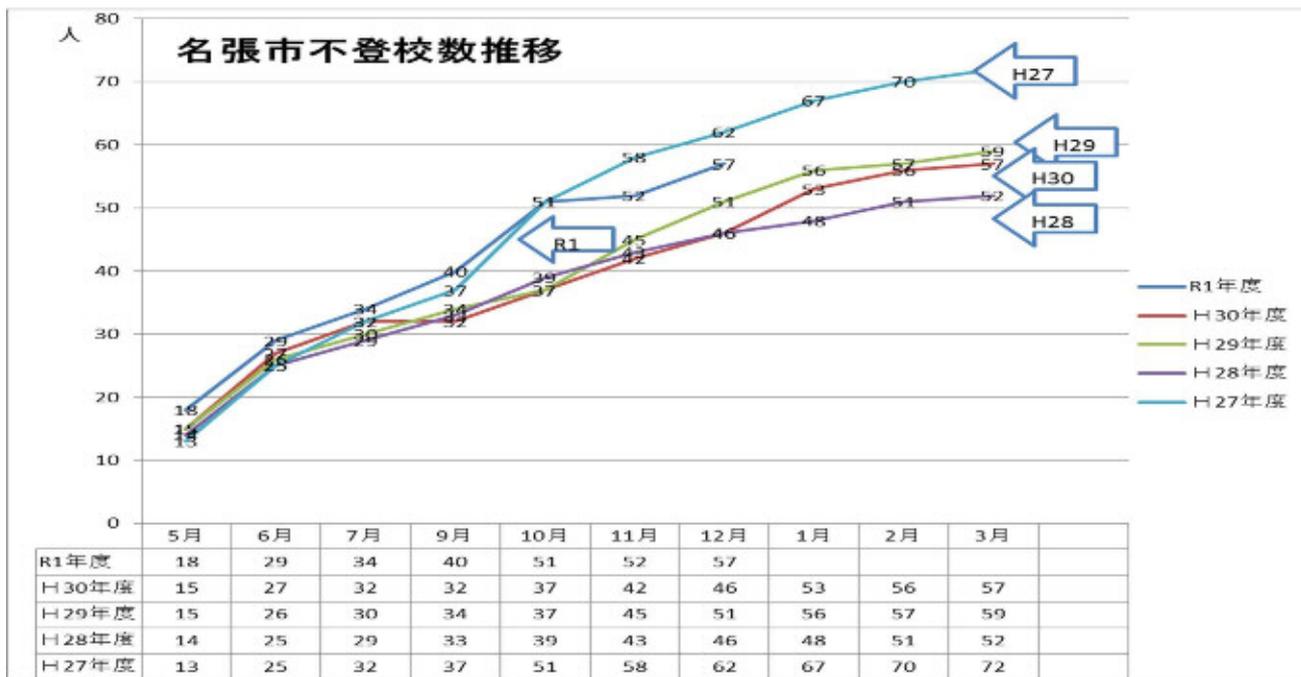
○割合においても、平成25年度より毎年増加している。

不登校児童生徒数の割合の推移（平成27年度～平成30年度）



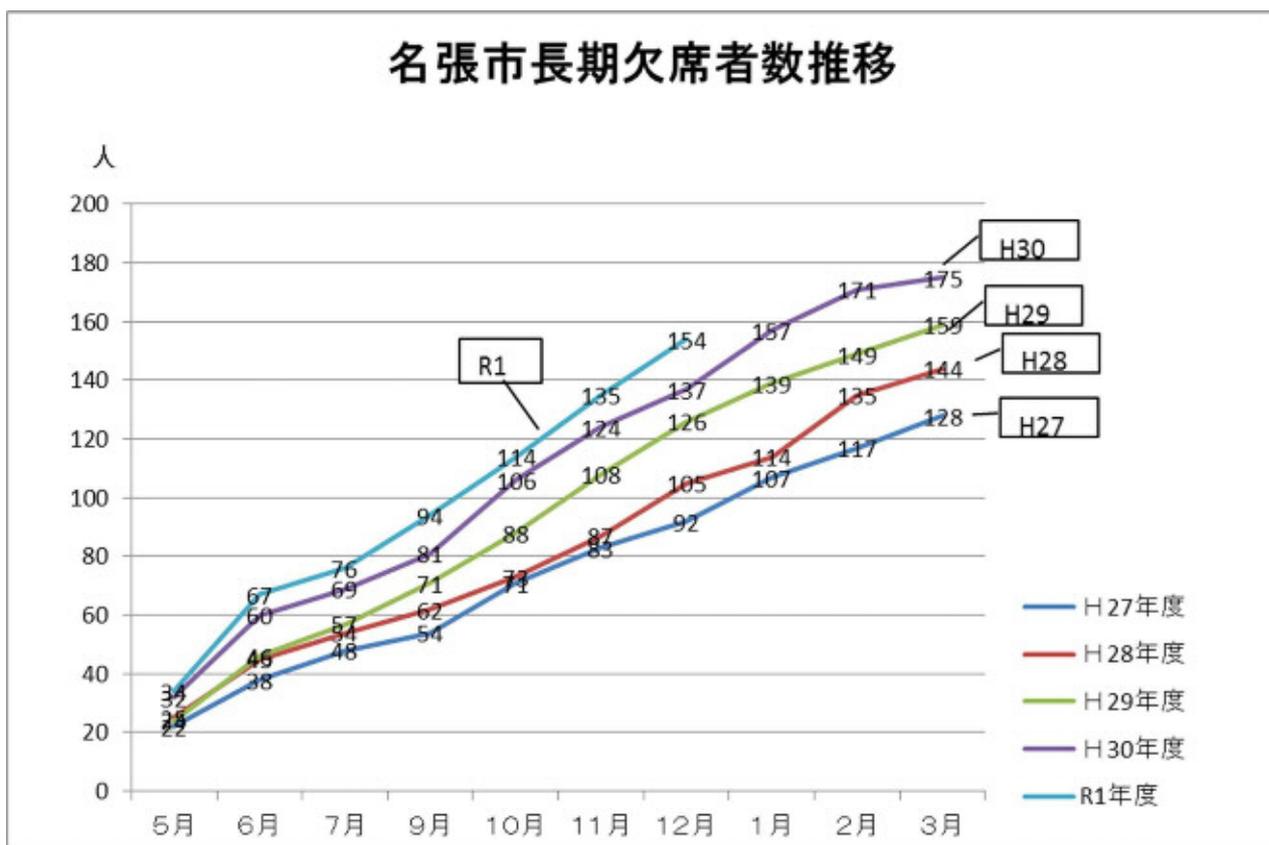
2. 名張市における不登校児童生徒の状況

(1) 名張市内小中学校不登校児童生徒の月別推移（平成25年度～令和元年度）



3. 名張市における長期欠席児童生徒の現状

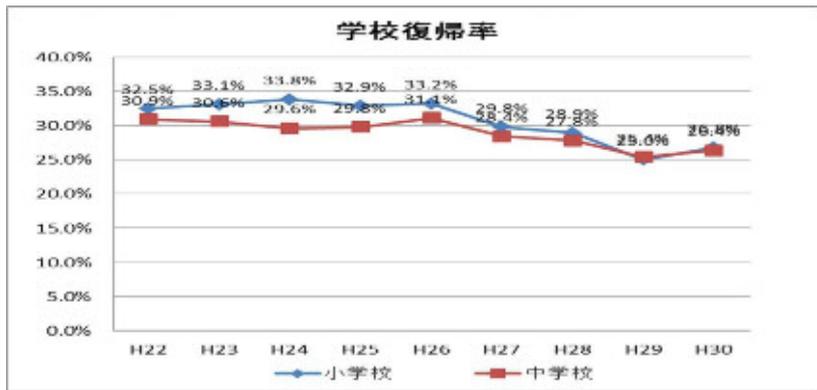
名張市における長期欠席児童生徒の月別推移（平成26年度～令和元年度12月）



※ 平成26年度～令和元年度「不登校・不登校傾向児童生徒の状況及び経過報告」（名張市教育委員会）より抜粋編集

- 名張市内小中学校の長期欠席児童生徒は、年々増加し、毎年10数名ずつ増え続けている。
- 名張市の場合、「不登校」理由によるものより、「病気」理由や「その他」理由に該当する長期欠席児童生徒が増加している。

3. 学校復帰率について



○学校への復帰率は、平成26年度から減少し始め、全国的に以前よりも学校復帰を果たしにくい状態にある。

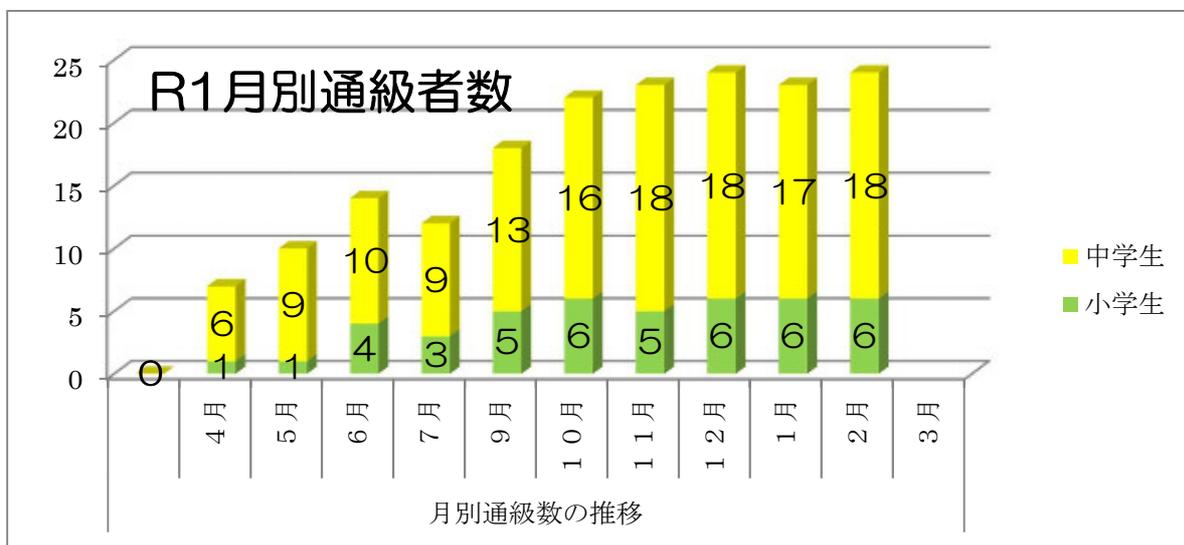
※学校復帰率
(平成30年度)
小学校：26.8%
中学校：26.4%

※ 平成22年度～30年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果より

※ 平成30年度さくら教室利用者の復帰率は2月末現在58%です。

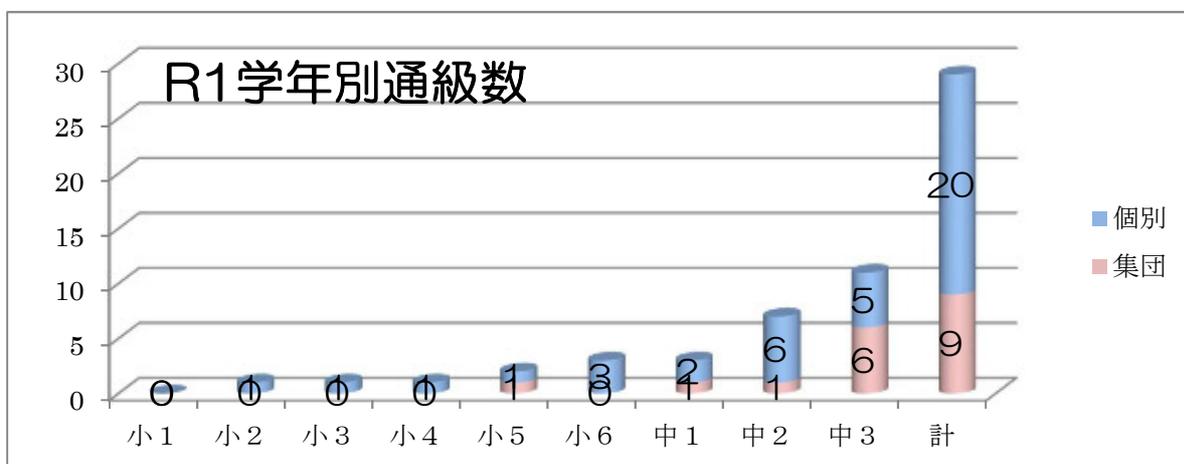
4. さくら教室の利用について

(1) 月別利用者数



今年度は、夏季休業明けや秋休み明けに相談が集中し、集団・個別ともに昨年度より年度の早い時期からの利用者が増加している。

(2) 学年別利用者数



学年が上がるごとに、長期欠席者の数とともに、さくら教室へつながる児童生徒も増える傾向にあるが、今年度は、小学生の利用者も増え、低・中学年からの通級も見られた。

5. まとめと課題

- さくら教室への通級・来室生は、昨年度より9名増加し、小学生9名、中学生22名の31名（2月末）です。うち、3名が年度途中での学校復帰を果たし、8名は週に何度かの別室登校や放課後登校など、学校と併用しながらさくら教室を利用しています。中学3年生12名中、11名はすでに進路先が決定し（2月末）、残る生徒も進学に向けて学校と連携しながら準備を進めています。
- さくら教室への相談の傾向として、子どもに発達の問題があり、学校や周りからの理解が得にくいことによる不登校の相談が増加しています。また、学校復帰のための適応指導を望むのではなく、学校に変わる居場所を求める保護者の声もありました。今一度、学校とさくら教室の連携と、それぞれの果たすべき役割について一考する必要があります。
- 名張市の長期欠席者の増加に伴い、さくら教室の利用者も増加していますが、さまざまなタイプの不登校の子どもたちがいることもあり、集団になかなか入れずに個別での対応が望まれるケースが増えています。指導員の数や体制の関係で、週に複数回の個別指導を希望しても実現が難しい現状があります。

2020年度さくら教室運営体制について

1, 児童・生徒年度当初人数見込み（現在の通級生）

	集団	個別（18 枠）	現在の合計	次年度4月見込み計
小学生	1名	7名（6年3、不定期1）	8名	4名
中学生	10名（3年6）	13名（3年6、復帰1）	23名	10名
現在の合計	11名	20名	31名	
次年度見込み計	5名	9名		14名

2, 児童・生徒人数見込み（昨年度までの傾向）

令和1年度さくら教室利用人数											
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
小学生	1	1	4	4	1	4	6	5	6	6	6
中学生	6	9	10	9	4	13	16	18	18	17	19
計	7	10	14	13	5	17	22	23	24	23	25
平成30年度さくら教室利用人数											
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
小学生	3	3	3	3	2	3	3	3	3	4	5
中学生	8	8	9	9	3	12	12	13	14	16	17
計	11	11	12	12	5	15	15	16	17	20	22
平成29年度さくら教室利用人数											
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
小学生	3	3	5	5	1	6	7	7	6	6	6
中学生	3	3	4	5	2	9	12	11	10	10	11
計	6	6	9	10	3	15	19	18	16	16	17
平成28年度さくら教室利用人数											
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
小学生	3	4	3	3	1	3	3	3	4	4	4
中学生	7	5	6	6	2	7	10	10	8	6	7
計	10	9	9	9	3	10	13	13	12	10	11
平成27年度さくら教室利用人数											
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
小学生	2	3	5	4	4	2	2	2	2	2	2
中学生	12	13	13	14	7	13	15	17	17	18	19
計	14	16	18	18	11	15	17	19	19	20	21

3, 不登校児童生徒への支援の在り方について（令和元年10月25日付 文部科学省初等中等教育局長通知）では、不登校児童生徒に対する適切な支援を行う教育支援センターの整備にあたっての指導体制として、通所の児童生徒の実定員10人に対して少なくとも2人程度置くことが望ましい。」とされている。

4, 名張市教育センター（さくら教室）の指導体制

学習等支援員（臨時技術員） 短時間勤務 2名
適応指導教室相談員（県費負担教職員） 2名

※さくら教室利用人数の増加、特に個別対応が必要な児童・生徒への対応の割合が高くなっており、適切な指導を実施するためには、早急に指導体制の充実を図る必要がある。